

## 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成17年度業務実績項目別評価表(案)

中期計画の各項目	評価項目 (平成17年度の計画の各項目)	指標	実績 (記載事項)	自己 評価	分科会委員評価					分科会 評価	評価理由
					委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項										
(1)研究者の採用等の研究開発の推進 学際的な研究プロジェクトを展開し、革新的な研究を実施。	(1)研究活動 新規研究グループの立ち上げ	・先行的研究事業の進捗状況	<p>・新規研究グループの立ち上げについては、中期計画で定めた主任研究者12人程度(今後2年間)までの拡大をすることを目標に、分子神経科学ユニット(Brennerユニット)、分子神経科学ユニット(丸山ユニット)、分子神経科学ユニット(内藤ユニット)の立ち上げを以下の通り行った。</p> <p>研究環境整備 沖縄県工業技術センター内に研究実施場所を借用し、分子生物学分野の研究を実施するのに必要な施設整備を行った。</p> <p>研究設備の導入 実験台、質量分析機等の上記研究ユニット実施に必要な研究設備の導入を行った。</p> <p>研究ユニットメンバーの充足 ポスドク、テクニカルスタッフ等の募集、面接等を行い、研究ユニットメンバーを採用した。平成17年末における採用者(代表研究者を含む)は、 Brennerユニット 1名 丸山ユニット 5名 内藤ユニット 3名 である。 これらの立ち上げを行った結果、平成17年末において順調に研究が開始されている。</p> <p>・新規立ち上げ準備として、10月より新たな公募を行い選考を進めた。</p>	A	A	A	A	A		<p>委員4:理事長の専門分野である分子神経科学分野からまず立ち上げたことは評価できる。今後他分野の設立時のモデルケースでもあり、研究レベルの基準を示すことになる。</p> <p>委員4:研究室としては仮住まいであり、一定レベル以上の施設ではあるが、研究レベルに相応しい施設整備が一刻も早く実現されることが望まれる。</p> <p>委員4:設備の導入と管理は適切な支援者を得て順調に進行している。</p> <p>委員4:PIレベルに相応しい若手研究者が採用されてきている。質的に高いレベルを維持するために、急速な補充は弊害を生む可能性がある。</p>	
科学分野間の相互作用を促すことのできる研究領域において研究組織を創設。											

## 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成17年度業務実績項目別評価表(案)

中期計画の各項目	評価項目 (平成17年度の計画の各項目)	指標	実績 (記載事項)	自己 評価	分科会委員評価					分科会 評価	評価理由
					委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
内外の研究者の招致。    研究の方向性に関する国際アドバイザーグループの設置(平成19年度～)。	ポスドク研究員の募集。現在研究が行われている分野を対象に若手研究者の募集。	・若手研究者の採用状況	既存4研究ユニット及び新規3研究ユニットにおいてポスドク研究員の募集・採用を行った結果、平成16年度末 13名 平成17年度末 19名 となり、着実に若手研究者の採用が行われた。	A	A	A	A	A			委員3:企業研究者も募集の対象としているのか。  委員4:質・量共に妥当な状況である。
	ポスドク研究員及び研究者の採用について、直接的な募集方法を活用。また、海外からの研究者の採用に注力。	・外国人研究者の招聘状況	既存4研究ユニット及び新規3研究ユニットにおいて外国人研究員等の募集・採用を行った結果、平成16年度末 1名 平成17年度末 6名 となり、着実に外国人研究員等の採用が行われた。	A	A	A	A	B	A		委員3:募集定員に対する採用人員の割合等の計数的な指標があると望ましい。  委員4:半数程度を外国人研究者にするという最終目標を考慮すると外国人研究員比率は十分ではない。環境条件等の整備が進んでいないとは言え、実績を改善するための対策が必要。
		・国際アドバイザーグループの設置準備状況									
(2)研究成果の普及  国際的な学術誌への発表を奨励。  研究活動に関する年次報告書の作成。  各種メディア、講演会等を通じて一般社会に成果を紹介。	(2)研究成果の普及  先行的研究事業の活動に関する年次報告書を年度末までに作成し広く関係機関に頒布。ホームページでも英語及び日本語で公開。	・国際的な学術誌への発表状況 ・年次報告書の作成状況 ・メディア、講演会等を通じての成果発表の状況	既存4研究ユニットの研究を実施した結果、 論文発表 22件 口頭発表 36件 ポスター発表 21件 出版等 5件 の成果発表を行った。さらに、スーパーサイエンスハイスクール指定校への講師派遣等、成果発表、社会貢献に積極的に務めた。 また、平成17年度の研究実施状況を取りまとめた年次報告書を作成し、関係者への頒布等を行った。	A	A	B	A	A	A		委員2:本機構発足以前からの研究も含まれているようであるので。(その内訳が明快になればAでも良いかも知れない。)  委員3:スーパーサイエンスハイスクール指定校への講師派遣等において、受講者にアンケートを実施し、その結果を評価の指標としてはどうか。  委員4:本施設での研究成果がどれほど寄与しているか明確では無いが、ポテンシャルの高いメンバーであることは十分示されている。

## 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成17年度業務実績項目別評価表(案)

中期計画の各項目	評価項目 (平成17年度の計画の各項目)	指標	実績 (記載事項)	自己 評価	分科会委員評価					分科会 評価	評価理由
					委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
知的財産保護のための管理体制の整備。	特許取得のためのシステムを構築。	・知的財産保護管理体制の整備状況	他機関を参照して、バイオ、化学、電気、金属等多岐に渡る分野の弁理士に関する情報を収集し、特許取得支援や知的財産保護管理のための準備を行った。これらの情報に基づき、今後の既存研究ユニットの進捗状況及び新規研究ユニットの採択に対応して、特許取得支援、知的財産保護管理を実施する予定である。	A	A	B	A	A	A		委員2:ここに説明された内容では、とても体制が整備されつつあるとは言い難い。  委員3:研究者に対する知財教育の実施も必要である。  委員4:JSTの特許管理システムに依拠しているが、整備段階としては賢明な方式である。
国際ワークショップやセミナーの継続実施	研究に関するセミナーや講義の継続実施。学術誌に掲載された研究成果や、国際研究集会等での発表実績について年次報告において報告。	・国際ワークショップやセミナーの実施状況	平成17年度は、下記の2件の国際ワークショップを開催した。 沖縄計算神経科学コース2005 期間:2005年7月1日~10日 オーガナイザー:Peter Dayan (Gatsby Computational Neuroscience Unit)、銅谷賢治(OIST)、坂上雅道(玉川大学) 参加者:オーガナイザー・講師16名、チューター10名、受講者35名  分裂と停止の細胞制御 期間:2006年3月6日~9日 オーガナイザー:柳田 充弘(OIST) 参加者:オーガナイザー・講演者22名、参加者33名	A	A	A	A	A	A		委員3:国際ワークショップやセミナーの年間の実施予定件数、拠点、想定参加者等の計数的な指標があると望ましい。  委員4:極めて質の高いワークショップが実施された。
(3)研究者養成活動 連携大学院制度を活用する等で学生の受け入れ指導。	(3)研究者養成活動 連携大学院制度の活用や共同研究プロジェクト等について、内外の大学及び研究機関との間で検討に着手。特に、博士課程の学生の将来的な採用を視野に入れつつ検討。	・連携大学院制度による学生の受け入れ状況	奈良先端科学技術大学院大学と協定を締結し、4名の大学院生を受け入れた。	A	A	A	A	A	A		委員2:もともとどのような目標を持っていたのか(例えば受入れ学生数)明示されていないので、Aという評価が相応しいのか判定不能。  委員3:大学院生の受け入れ状況等、計数的な指標があると望ましい。  委員4:重要な試みを実施している。

## 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成17年度業務実績項目別評価表(案)

中期計画の各項目	評価項目 (平成17年度の計画の各項目)	指標	実績 (記載事項)	自己 評価	分科会委員評価					分科会 評価	評価理由
					委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
大学院レベルの研究者養成プログラム開始準備への取り組み。	平成18年4月開催の"Single Molecule Analysis(一分子解析)"に関するワークショップ及び同年7月に予定されている計算神経学に関するセミナー企画業務を完了。	・大学院レベルの研究者養成プログラム準備状況	平成18年4月開催の"Single Molecule Analysis(一分子解析)"に関するワークショップ及び同年7月の計算神経学に関するセミナー企画業務を完了した。	A	A	A	A	A	A		委員4:個別プログラムの開発段階であるが、着実に実施している。
(4)大学院大学設置準備活動  大学院大学の教育研究分野・組織体制及び教員の人事制度についての考え方の明確化。	(4)大学院大学設置準備活動  運営委員会との共同のもと、大学院大学の在り方に関する検討を行うための外部有識者の候補を選定。  運営委員会との共同のもと、今後の研究領域の検討を支援するための科学顧問グループの編成に着手。	・教育研究分野・組織体制及び教員の人事制度の確立への取り組み状況	・ 大学院大学の設置準備に向け、リトリート(2~3日間の集中検討会)の実施の提案など、運営委員会において議論が行われた。平成18年度及び19年度において、さらに具体的な取組を行う。  ・ 当面、脳科学と数理生物学の二つの分野を重点領域とすることとしたところであり、今後、これらに加えてどういう分野に重点を置いていくかの検討を行うため、科学顧問グループの編成を行う。  ・ なお、研究者の採用や、新キャンパス整備のためのマスタープランの策定など、大学院大学設置のために必須となる諸作業については、順調な進展が見られる。	B	C	B	C	C	A		委員1:世界最高水準を目指す大学院大学としての概要が不明確である。具体的な内容の検討に向けて今後具体的な行動計画を立てて取り組む必要を感じる。  委員2:外部有識者の協力を得て評価や運営、テーマの選定の客観化や重点化のプロセスを透明化する重要な項目であるのに、実績が不十分。  委員3:当初計画が遅れ気味であるため、今後に期待される。  委員4:本機構の使命は極めて挑戦的なものであり、また困難なものでもある。しかし、「形成組織」(大学院大学にいたる設立準備組織)の構築は進んでいない。具体的には、運営委員会を補佐すべき「外部有識者」や「科学顧問」の選任が遅れている。また、運営委員会は定期的開催できる構成ではなく、研究教育内容の構築に責任を有する常駐者も現地にはいない。さらに、現地事務局には大学院経営に通暁するスタッフも存在しない。早急に形成組織体制を見直し強化する必要がある。  委員5:何故Bなのでしょう。出来たばかりの組織ですから努力賞でAでもよいのでは、とも思いますが。
大学院大学の学長及び主な役員候補者に関する調査の開始(平成19年度~)。	_____	・学長及び主な役員候補者に関する調査の実施状況	_____								_____

## 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成17年度業務実績項目別評価表(案)

中期計画の各項目	評価項目 (平成17年度の計画の各項目)	指標	実績 (記載事項)	自己 評価	分科会委員評価					分科会 評価	評価理由
					委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
(5)施設整備 恩納村における新施設設計計画の監督のための研究者からなる委員会を組織。	(5)施設整備 恩納キャンパスのうち旧白雲荘の改装作業を完了する。	・新施設の準備状況	<p>・旧白雲荘は、恩納村キャンパスでの機構の第一番目の施設となるため、デザインコンセプト創りにかなりの工夫を要したが、結果的に旧白雲荘のイメージを一新する改修工事(セミナーハウス、機構本部)を本年度内に完成させることができた。</p> <p>・また、完成直後に国際ワークショップセミナーが控えているため、設計および工事中に、セミナー主催の研究者と密接に打合せを行い、機能的かつ快適なセミナー室および宿泊室を整備した。</p> <p>・今後、速やかに施設概要のわかる資料をWeb上で公開予定。</p>	A	A	A	A	A	A		委員4:大変魅力的な施設に改修され、一部に未改修スペースを温存してある。
プロジェクトマネージャー等の支援を得ながら施設整備を実施。	恩納キャンパス全体のデザインコンセプトを練り上げたマスタープランの策定を完了する。また、最初の建設対象となる施設のデザインを完了する。これらのマスタープラン及びデザインは機構のウェブサイト及び展示によって一般に公開する。	・基本設計の策定の状況	<p>・マスタープラン策定に際し、研究者とで構成されるキャンパス・プランニング・グループと設計者の打合せを密接に実施した。</p> <p>・300PIを前提としたマスタープラン4案を策定し、11/1の運営委員会メンバーによる委員会にて審議していただき、条件付きで1案に絞った。最終的に南地区を前提とした1案を1/10の運営委員会で承認していただき、その後、プレス発表、および機構のウェブサイトにて一般公開を実施した。(1/20)</p>	A	A	A	A	A	A		委員4:基本計画としては大変魅力的なプランである。ただ、沖縄の気象条件(高温多湿)を克服する工夫が具体的に付加されることが望ましい。

## 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成17年度業務実績項目別評価表(案)

中期計画の各項目	評価項目 (平成17年度の計画の各項目)	指標	実績 (記載事項)	自己 評価	分科会委員評価					分科会 評価	評価理由
					委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
			<p>・同時に、最初に建設に着手する50PIの施設(7万平米、ハウジング220戸を含む)の基本設計について、環境影響評価の準備書を作成して、事業者説明会を2回、実施した。また、造成計画と建築計画を同時期かつ協力的に作業した結果、3月末までに造成および建築のデザインを完了するとともに、工事費概算作業も完了した。(基本設計の内容に関しては、平成18年5月末の運営委員会にて基本設計正式承認後、速やかに一般公開予定)</p> <p>・その他付帯業務として、国道58号線バイパス計画と大学院大学アクセス道路の技術的調整、およびメインキャンパス内の民有地買収の具体的実施方法等に関する検討を実施した。</p>								
2 業務運営の効率化に関する事項											
(1)組織運営及び財務管理	(1)管理運営及び財務										
<p>管理運営業務の効率化。</p> <p>財務管理の仕組みの構築や各種規則の整備。</p> <p>大学院大学の教員の給与体系の検討。</p> <p>外部資金の獲得。</p>	<p>効率的な管理部門のため、月例の業務運営委員会(MACO)及び代表研究者委員会(COPI)を開催する。財務管理部門の体制を整備するため、財務担当の責任者を任命し、毎月MACOに報告させる。</p> <p>研究管理部門の機能を強化するため、研究管理担当の責任者を任命し、MACO及びCOPIに参加させる。</p>	<p>・効率化への取り組み状況</p> <p>・財務管理の仕組みや各種規則の整備状況</p> <p>・大学院大学の教員の給与体系の検討状況</p> <p>・外部資金獲得状況</p>	<p>・効率的な業務運営を果たすべく、ほぼ毎月業務運営委員会(MACO)及び代表研究者委員会(COPI)を開催した。業務運営委員会は理事長、理事・事務局長、総務部長、研究事業部長、代表研究者委員会議長から構成されている。運営上の重要課題、規定制定、年度計画策定、運営委員会対応といった議題を検討・審議するとともに、予算執行状況、施設計画進捗報告が定期的に行われた。代表者研究委員会は理事長、代表研究者、研究事業部長から構成され、代表研究者の公募・選定、今後の研究テーマ、研究施設計画、他研究機関・大学との連携といった議題を審議・検討した。</p>	A	A	A	A	A	A	<p>委員2:体裁は整備されてきていると認められるが、実際の運営効率化はこれからというように見受けられる。これも効率化の努力が見える指標の数値化の工夫が望まれる。</p> <p>委員3:業務運営委員会に外部の委員を登用する必要があるのではないか。</p> <p>委員4:組織運営は順調に行われている。ただし、PIの新規採用までをCOPIで行う方式で良いだろうか。本来なら、「外部有識者」の関与が必要であると思われる。</p>	

## 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成17年度業務実績項目別評価表(案)

中期計画の各項目	評価項目 (平成17年度の計画の各項目)	指標	実績 (記載事項)	自己 評価	分科会委員評価					分科会 評価	評価理由
					委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
			<p>【管理運営業務の効率化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>内部事務の事務処理の迅速化・効率化が図られるように、総合業務システム(給与システム、会計システム、旅費システム)を構築し、更に追加で勤務管理システムの導入を行い、平成17年度以降も効率化が図られる体制を整えた。</li> </ul> <p>【財務管理の仕組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>財務担当責任者を総務部長とし、更に予算単位を設定、それぞれに予算責任者を置く事で、予算編成・執行・執行管理を行う仕組みを構築した。</li> <li>財務管理の仕組みを構築する為、下記の財務・経理上の規則・要領を定めた。また、業務運営委員会(MACO)に予算執行状況を毎月報告し、予算の効率的な執行を図る体制を整備した。規則・要領を定めるにあたっては、複数の他法人の規則を参考にし、かつ外部の意見として監査法人のコンサルティングを受け公認会計士の意見を参考にしながら整備した。</li> </ul> <p>ア 会計規程 イ 契約事務取扱規則 ウ 経理規則 エ 固定資産管理規則 オ 予算規則 カ 勘定科目要領 キ 小口現金取扱要領 ク 調達契約審査委員会要領</p> <p>【外部資金の獲得】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学研究費補助金の指定機関の申請を行い、同指定機関の認定を受けた。また、科学研究費補助金への申請2件を行った。</li> </ul>								委員1:「外部資金の獲得」について自己評価がないが、Bと評価する。「業務運営の効率化」については、もう少し全体的に項目別のきめ細かな自己評価をする必要があると思う。

## 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成17年度業務実績項目別評価表(案)

中期計画の各項目	評価項目 (平成17年度の計画の各項目)	指標	実績 (記載事項)	自己 評価	分科会委員評価					分科会 評価	評価理由
					委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
事務職員の専門能力を高めるための措置。	管理部門及び技術サポート部門のスタッフが、必要な研修を受けることができるようにする。	・事務職員の専門能力向上のための取り組み、研修の実施状況	・機構発足時に、常勤事務職員全員に対して他の研究開発型独法(JST、理研、JSPS)の運営実務に関する研修を受講させた。 ・本機構は、外国人の在留審査関係の申請が多いことから、これらの業務を効率的に行うため、総務部から1名を財団法人入管協会が実施した「申請取次と出入国事務研修会」に参加させた。	A	A	A	A	A	A		委員4:極めて順調であり、努力の様子がうかがえる。
	(2)運営委員会関連 運営委員会に対して、平成18年初頭に予定されている第1回会合に向けた事務的支援及びロジスティック面での支援を行う。		運営委員会関連 第1回運営委員会は米国サンフランシスコ市で平成18年1月10日に開催された。機構は開催にあたってのロジスティック上の諸準備を行うとともに、事務局として運営会議議長を支援し、運営委員会議題にそった報告書・資料を作成、事前配布するとともに議事録の作成等を行った。	A	A	A	A	A		委員3:評価の観点が不明確。運営委員会での決定事項の実施に関し、必要な手段は提供したのか? 委員4:事務補佐活動としては、努力の跡が伺われ、十分に責務を果たしている。	
(2)活動評価 先行的研究事業の研究評価を行う特別委員会を設置(平成18年度~)。	8.活動の評価 運営委員会に年次報告書を提出し、評価を受ける。この年次報告書は、研究に関する年次報告書を含む。	・年次報告書の作成	研究に関する報告を含む、平成17年度年次報告書(OIST Annual Report 2005)を作成した。	A	A	A	A	A	A		委員3:年次報告書が計画通り作成されたことは認められるが、それに関する評価結果が重要であると思われる。
3 予算、収支計画及び資金計画 別紙のとおり	3 予算、収支計画及び資金計画 別紙のとおり	・自己収入の確保状況 ・一般管理費の節減状況 ・業務経費の節減状況	【自己収入の確保状況】 平成17年度の自己収入額の実績は、計画はなく、実績もなかった。自己収入は法人設立初年度であるため、なかった。								



## 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成17年度業務実績項目別評価表(案)

中期計画の各項目	評価項目 (平成17年度の計画の各項目)	指標	実績 (記載事項)	自己 評価	分科会委員評価					分科会 評価	評価理由
					委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
			<p>【一般管理費の節減状況】 平成17年度の一般管理費(人件費・派遣職員経費含む)の実績は計画額510百万円(内訳:一般管理費310百万円、人件費174百万円、派遣職員経費26百万円)に対し445百万円(内訳:一般管理費322百万円、人件費109百万円、派遣職員経費14百万円)で計画額に対し、64百万円</p> <p>【業務経費の節減状況】 ・空運業者との法人契約を締結し、沖縄 - 東京及び沖縄 - 大阪等の利用頻度の高い路線について法人用回数券を利用できるようにした。 ・複数の研究ユニット共同で研究員等の募集を行うことにより、個別で募集した場合に比して経費を節減した。 ・ホームページに調達・入札情報を掲載することにより沖縄県外の業者の参入も含めた競争を促し、入札価格の低減に努めた。</p>	A	A	A	A	A	A		
4 短期借入金の限度額 上限10億円。		・短期借入金の借入状況	<p>・第1回目の運営費交付金が入金となるまでの約1ヶ月間、5億円の借入を行った。</p> <p>・借入レートは、銀行間の競争を図った事により、0.1%の低廉なレートで調達を行うことが出来、支払利息の低減を図る事が出来た。</p>	A	A	A	A	A	A		
5 重要な財産の処分等に関する計画 計画なし。		・重要財産の処分等の状況	・重要な財産の処分等はない。								_____
6 剰余金の使途 研究事業の充実及び研究環境の整備に充てる。		・剰余金の使用等の状況	・法人設立初年度であるため、剰余金はない。								_____

## 独立行政法人沖縄科学技術研究基盤整備機構平成17年度業務実績項目別評価表(案)

中期計画の各項目	評価項目 (平成17年度の計画の各項目)	指標	実績 (記載事項)	自己 評価	分科会委員評価					分科会 評価	評価理由
					委員1	委員2	委員3	委員4	委員5		
7 その他内閣府令で定める業務運営に関する事項											
(1)施設・設備に関する計画  中期目標期間末に恩納村の建設予定地で施設の供用を開始することを目指して、施設整備を計画的に進める。	「5.施設整備」のとおり。	・沖縄県恩納村の旧白雲荘改修及び建設予定地造成工事の実施状況	・旧白雲荘改修工事は、一般公募型入札を実施し、12月末に着工。無事契約期限内に完了し、3月末に竣工引き渡しを受けた。 ・造成工事に関しては、キャンパスマスタープランの策定に時間を要し、年度内着工は果たせなかったが、今後、建築工事と整合性の取れた造成工事計画を作成する事により、中期目標に大きな影響は無いと判断する。	A	A	A	A	A	A		
(2)人事に関する計画  業務運営の効率化により、常勤職員の増加抑制。  柔軟で機動的な人員配置。  任期制職員を措置。		・常勤職員数の抑制状況、任期制職員の任用状況等	・新規の独法の設立であることに鑑み、組織をできるだけスリム化し、経験を有する基幹職員を中心とした少数精鋭で業務を推進することとした。 ・職員の採用に当たっては、即戦力として民間から公募し、官庁・他の独法から出向者を受け入れるなど能力・経験本位で採用した。(定員18名に対し、年度末迄に14名採用) ・平成17年度3月末の実員状況は次のとおりとなった。常勤職員67名(研究者を含む任期付職員53名を含む)	A	A	A	A	A	A		
(3)積立金の処分にに関する事項  計画なし。	(3)積立金の処分にに関する事項  計画なし。	・積立金の処分状況	・法人設立初年度であるため、積立金の処分はない。								